



第八回國際道路會議議題の決定

藤井眞透

佛國巴里の道路會議事務局に於て、一九三六年六月二七

議題第一

日國際常置委員會を開き次の如く第八回國際道路會議の議題を決定した。同會議は昭和十三年六月一九日から七月二日に亘り和蘭ハーグで開かるゝ事になつた。

第八回國際道路會議々題

和蘭ハーグに於て一九三八年開かるゝ第八回國際道路會議の議題は一九三六年六月二七日巴里事務局に於ける國際常置委員會で決定せられた、次の如し。

第一部 道路築造並に維持に關するもの

議題第二 ミュンヘン會議後に於て車道築造及維持に用ひ

たる

a タール

b アスファルト

b 煉瓦鋪裝

c 鑄鐵、銅、ゴム等の如き特殊材料による路面工法。

装工法の進歩。

。 乳劑

の準備及使用に關する進歩。

注意 議題第一及第二は街路に於けるものと同様に新し

き地方又は開發の過程にある國土にも適用する。

第二部 道路の使用、交通整理及行政

議題第三 道路に於ける交通事故

a 統計表の基準及國際的統一

b 事故の原因の考究方法並にその軽減の方法

議題第四 道路に於ける次の各種の交通の分離

車道（一方交通と複式交通）

自轉車道

歩行者道

郊外幹線に至る取付道路

道路交會點と交叉點

A 之らの用意施設が適當なるや否やの狀勢の研究

B 自動車道に對する適用

第一部と第二部との聯合

議題第五 次の見地から見たる車道鋪裝の研究並にその標

準化

A 滑り度又は路面波狀並に横滑りに對する抵抗。

B 照度 (light value) 又は路面の光度吸收率 (人工照

明の場合)

議題第六 道路路床の研究

a 路床土の性質の決定、試験方法並に試験器械

b 道路 (基層と路面層) 築造並に維持に及ぼす路床土

の影響

Program of Questions

The 8th International Road Congress

The Hague 1938

First Section — construction and maintenance

1st Question

a) progress, since the Congress at Munich, with

the use of cement for carriageway surfacings

b) brick surfaces

c) surfaces in special materials such as cast iron, steel, rubber.

2nd Question. N. B. (1)

Progress since the Congress at Munich in the preparation and use of:

- a) tar
- b) bitumen (asphalt)
- c) emulsion

for the construction and maintenance of carria-

• Geway. N. B. (1)

Second Section— user, regulation and administration.

3rd Question— accidents on roads,

a) bases of statistical returns and their unification,

b) methods of investigation into the causes of accidents and means for their prevention.

4th Question— the segregation of the various

classes of traffic on the highway,

carriageways (single or dubbi),

cycle tracks,

footways,

service roads in connection with

ribbon development, parking places,

road junctions and crossings.

A—A study of the circumstances which make these provisions desirable or undesirable,

B— Application to motor roads.

First and Second sections combined

5th Question— examination and standardization

of carriageway surfacings from the point of their;

A— Slipperiness or rugosity and resistance to skidding.

B— Light value or the degree to which they

absord light (under artificial illumination).

6th Question— examination of the sub-soil of roads;

a) determination of the properties of sub-soils, methods of testing and testing apparatus.

b) influence of the properties of the sub-soil on the construction of roads (foundations and surfaces) and their maintenance.

N. B. (1)— Question 1 and 2 apply as much to roads in new or partly developed countries as to those which are already developed,

前回迄の會議を見れば第一表に示すが如く己に會を重ねる事八回、次を追ふて盛大に進み殆ど世界各國各地方を網羅してゐる。

第一表

會議	開催	地	期	日	代表	代表	會員	本	邦	代表	表
一、	佛國	パリ	一九〇〇年	五月	元	三	二四二	小橋	土木	局長、	沖野
二、	白耳	義	一九〇七	五月	元	三	二六	大塚	土木	局長、	坂田
	ブラッセル	ス						野田、	中川、	金森	技師

三、	英	國	一九三六	四月	五	三九三	後藤	技師、	中原、		
四、	西	班	一九三五	五月	五	二六二	松本	内務	書記官、	茂庭、	
五、	伊	太	利	一九六九	五月	七	三四九	坂内	技師、	佐藤	技師
六、	米	國	ワシ	一九一〇	五月	七	三六一	藤井	技師		
七、	獨	逸	ミ	ニ	一九三九	六月	八	三四五	三輪	大阪	府部長、
八、	和	蘭							東京	府	課長

會議に加盟せる政府は現在九六であり、そのうち第七回ミンヘン會議に國家代表を送らなかつたのは全世界を通じて國家として僅に滿洲國、イラン國、及パラグライ國の三國に過ぎず屬領その他で政府代表を送らなかつたのは蘭西印度、ベルギー、コンゴ、英領ギニア、リバン、ニューカレドニア、ニュージールランド、ニヤサランド、セネガル、タンガイカに過ぎない、殆ど全世界を網羅した。

議題に對して報告書を呈出したものは二二國八三報告に達しその内譯は次の如し。

議題全部六に亘りて呈出したもの、日本、獨逸、英國、伊太利の四國。

一九三六年六月二七日巴里の國際道路會議事務局に於て
國際常置委員會が開かれた、出席者は次の如し。

會長 M. Mahieu 土木省 Inspector general.

副會長 M. Chaix 佛國ツーリングクラブ會長、

常務理事 Gavrian. 土木省 Inspector general 土

木大學教授、土木省評議會々々
長

前委員 W. Rier Jeffreys, 英國道路改良會長

委員 佛領西アフリカ ボー

ベルギー デヘーム 土木局長

丁 抹 ヘルステッド 土木局長

エジプト モハメドサトリイ

スペイン エゴネツ、 土木省
アンブロナ

佛 國 バルテ 內務省

ブーテ 土木省

シルバン 鐵道々々路局長

ドレーフス 土木局評議員
ライラボア 內務省地方局

マリシ 前セーヌ縣知事

ロハーン 佛國自動車聯
盟會長

スケー 土木大學々々長

英 國 クレメンツ
ハルト ロンドン大學
教授

匈 牙 利 ベンケ 交通省

蘭 印 度 ウリース 內務省

印 度 支 那 モース 前土木局長

マダカスカル ラムボード 佛國拓務省土
木局技師

モ ナ コ ルネツチ 殖民地管理長
官

和 蘭 ガリシク 塵埃防止協會
々々長

ネルレンス 道路局長

タイン 國立道路研究
所

ウエントホルト

シ ャ ム プラサートマイトリ

瑞 西 スタインル

チエツコスロバ 土木省
キア ホローセク

議長「之から開會します。かく多數出席された事を感謝します。之は各國政府が道路問題に深き關心を有して居るゝ事を示すものであります。

各國では、道路は一般交通の爲に築造されてるのみでなく、更に進んで自動車道の創設が企圖せられてをります。その最初は伊太利で始まつたが極めて有功なる事を證され特に人口密度の大なる地方では時として缺くべからざる必須のものとして考へらるゝに至りました。

近年吾が巴里でも郊外の發展が極めて急激で交通問題の解決善處に苦心して居りその爲に巴里の西方郊外では自動車道を創設し目下工事中であります。今日午後之を見學するゝならばその一適例を認めらるゝ事と思ひます。

此自動車道は、巴里から二〇料の地點で幹線國道と聯絡してをり、國道は此爲に自動車線三線に擴張されてをります。

他の國は更に遙に進歩してをり、相當の距離に亘り大都市を連絡してをります。過去の經驗によると之は極めて、

經濟上有利なる事を證明し交通の便宜から云へば自動車道が卓越せる利點を有するは疑を入れないもし自動車道が鐵道と同様に自己個有の軌道を備へるとすれば歩行者、自動車、馬車、農業車の如き緩速交通による事故の大部分に消滅するのであります。

只唯一の缺點は高價なる點である。在來道路の幅を広げるよりも高價であり而して各國共に現在、緊縮豫算に直面してゐる。強を誇る國家ですらその經費を節約するを餘儀なくされてる状態にある、之が自動車道の發達を妨げてゐる原因である。

吾々はミュンヘン會議に於て始めて自動車道の問題を研究し且獨逸の技術家により企てられてゐる、大規模の事業を見學する機會を得た。最近に此等の責任者たるトツド博士からケルンデーイスブルグ間の新道路の開通式に招待されたが之に參列し得なかつたのは極めて遺憾であつた。私はベルリンの近郊でデーイスブルグよりも規模の大なる此種の道路を見た吾が獨逸の同僚は實に偉大なる仕事を完成し

た吾々は和蘭の會議の機會に自動車道を見る事が出来るか否かは知らぬが吾が同僚たるゲリング君は後で之に就て御話があらう、と思ひます。一般的の道路に就て云へば吾人が當面してゐる問題は尙極めて複雑である。

自動車数は年々益々増加の趨勢にあつて道路は交通安全の見地から見て益々不安度を増しつゝある。尙鐵道と運河輸送とに對する競争も亦過重になりつゝあるは明である。鐵道と道路との運輸關係を協力に待つは各國に於ても極めて困難であるがその努力の方法を研究するは必要である、自動車の普及により國民全體の利益の増進と個人の利益とを調和せしむる方法の研究も必要である、同一軌道に於ては何人でも同時により迅速に利益せんとするか又は、個人の利益を満足する爲に之を利用せんとするは許すべからざる事は、基本的條件である。此問題は他の一般公共的のものと同様であつて、道路會議が無視し得ざる重要な事項である。

吾が聯盟は第一に公共事業としての道路の防衛に深き關

心を有する。

吾人は交通に適應する道路を必要とする、合理的限度を越ゆる經費を防止する爲に道路の維持に對する費用と運輸方法の協力とを必要とする、從來之に關する考究を行はなかつたが極めて切實のものであると信する、之は道路を適當に維持する事の「自由」に對する侵害ではない。現在に於ては寧ろ道路の維持は公共の普通財源では殆ど不可能の狀態にありと認める。かゝる狀態では、道路の築造者と使用者とを嚴格に統制調和せしむる方策を必要とするは必然である。吾人は此限界點を求むるに努力を拂ふべきを要し吾人は此研究に歩を進むるを要する。道路と交通に深き關心を有する總ての人々がかゝる最高最重の問題を國內的又は國際的に研究討議する事を深く喜ぶ所である。

此意見は特に國際的に運輸旅行交通を便ならしむる爲に計畫された國際道路に關してゼネバに提議された事に關して深く注意を喚起したい、之は當面してゐる別個の問題で今單に之に觸れた問題に過ぎないが、之を研究して結論を得

べき可能性ある方法の發見を希望して止まない。

茲に本日の御列席を謝すると同時に吾が會議に於て今日迄に採用された決議は幾多貴重なる研究の賜である事を認め更によりよき協力によりよき收獲を得ん事を切望する。

技術的問題は科學的、工業的問題と同様に各國との協力が直に之を達成する道でありそして吾が聯盟は。屢々會合を重ねる事によりて國民間の融和を促進するものなる事を確信する次第である。

吾人は吾人の理想に忠實ならしめよ而して平和の過程に於て歩一步國民間の融和の増進を得る事に就て全世界は吾人に感謝する事を期待して居ります。(拍手)

會議の事務に關する報告並に豫算の討議あつた後に第八回和蘭に於ける、第八回道路會議の議題に就て論議された。

常務理事「一九三六年三月一四日理事會は此問題に關して、各國代表に照會して七一の申出を受けた之らを分類し、A B C の順に列べ之から選定しましたが、從來の慣例に

より會議主催國の選定に委ぬるものとして、二問題を殘して置きたい、然し之らは單なる希望又は申出に過ぎない事を特に申述べたい、常例により六議題を選ぶ事が大切である之以上選ぶも會議では討議する事は困難であります。議題は次の如く分ける。

第一部 道路の築造及維持 議題二 會場二

第二部 交通、行政 議題二 會場二

第一部第二部連合 議題二 會場二

理事會は第一部の議題としてA B D の群から次の三を選んだので之から二を決定したい。

A a、ミュンヘン會議後に於て、路面鋪裝に用ふるセメントの使用法の進歩

b、煉瓦鋪裝及鑄鐵、鋼、ゴム等の如き特殊材料の鋪裝

B ミュンヘン會議後に於て次の材料の準備並に使用法の進歩

a、タール

b、アスファルト
c、乳劑

○ 基礎の研究、特に路面の強度と保存に及ぼす路床の影響

各國の提議を見ると A B D の群は極めて多數に上つて居り且セメント、タール、コンクリート、アスファルトを省く事は困難である。その一のみを選べば他のものに關心を有する人の反對を招く事は明である。

和蘭代表ゲリンクク氏「議題一の煉瓦ゴム等に關するものは、已にミュンヘン會議に於て得た結論と關聯して居る事を附加して置きたい、即「ゴム又は鐵を用ふる鋪裝の工法に關しては、更に進で研究を繼續する事が望ましい」となつて居る。

從て吾々は同意する然し煉瓦ゴムその他の使用 (b) はセメントのもの (a) との標題は二の報告に分つものであるが、同じ會場で同時に討議するものであるかを伺ひたい。議長「それはどう解釋すべきか、然し著者は a と b、又

はその兩者を取扱ふべきを間隔を許されるだらう。

白耳義代表デヒム氏「白耳義代表が希望するのはコンクリートと關聯してその目地に特に注意を拂つて頂きたい。吾々は目地に就て各國で如何なる工法が用ひられてるかを知る事を希望して止まない。而して此特殊の點に就て報告を得る爲に標題に之を指示したいと思ふ、尙鋪裝の壽命耐久性に就ても同様に知りたいと思ふ、實際コンクリート鋪裝の財源を公債に求むるに當り、その償還期限を鋪裝の壽命期限と考へる場合に之を明にする必要がある。之に關する確定的の報告がないので知りたいと思ふ。

常務理事「匈牙利代表ベンケ氏は鋪裝の厚さと使用セメントの%を強調した。もし特殊の興味ある點を記述するならば議題の標題は極めて冗長のものとなると考へる。從て各報告者がその最も興味ある點を取扱へばいと諒解してはよくはないか。

佛國ブーテ「標題を長くしないで總ての要求を含ましむる方法としては報告者をして特に理事會が選んだ題目に指

定する特殊の點に就て注意を喚起せしむべきである。

議長「此外反對はありませんか」可決

英國代表ハート「詳細なる指示を各報告者に送るべき文書の中に與へるならば尙進んで報告者は總て國際術語を用ふべき事と、各國の翻譯者は、此術語集を備ふべき事を文書で勸誘してはどうです。

常務理事「吾が國際術語集を用ふる事に關するハルト氏の提議は何人も賛成と思ふ更に之は總ての報告に適用すべきである。今年末に會議の準備を始める要があるし、術語集は現在改訂準備中で間に合はぬから、在來の術語集を用ひねばならぬ。

議長「外に提議がなければ議題二と三とに入りたい。」

英國代表ハルト氏「議題二は、大多數の國に於てタールアスファルト、乳劑に關心を有する點から會議の議事に加へられん事を英國代表として希望する」

佛アフリカ代表ボー氏「之に關して私は次の事項「都市街路又は新しき國土の土砂道の何れかに就て」を附加し尙

「特に一方に於てはアフリカの如き新しき地方の土砂道に瀝青膜層 (Carpet) を附着せしむる事に關する研究と他方に於て之らの瀝青膜層を木塊鋪裝と他の瀝青鋪裝とに附着せしむる方法に就ての研究」を附加する事を希望する。

常務理事「議題は瀝青膜層よりも更に深入するものである、亦下層との附着力の問題も含まれてゐる。

議長「議題一と同様に標題を冗長にしない爲に此點に就て各報告者に注意を喚起したい。

和蘭　ゲリンク氏は同國ウエントホル氏及蘭印代表オットツウリス氏の支持を得て次の如く述べた「議題三路床及基礎に就ては英國の如く深十二米に及ぶ泥炭質の路床の上に道路を築造してゐる國で各國代表に御目にかけてほしい事柄である。本議題はハーグ會議の議題中特に重要なものと考へる。

印度支那代表モー氏「印度支那の如く道路は比較的新しく且、人工的の基礎は全くなくて單に小砂利を掛けたものに過ぎない所では路床の問題は特に關心を有する事であつ

て、議題二の如く容易に得らるゝ資料を有しない、之に就て完全なる研究があつたとは考へぬが之を研究する事は極めて必要である。

チエツコ代表ホローセリ氏「本議題は今迄の會議で嘗て研究された事はない。此爲に次回會議で此の標題「路床土の研究方法、分類、性質の闡明方法」に換へて取扱ひたいと思ふ。

和蘭代表ゲリンク氏「題目は研究して「試験」改良」を加へたい。

白國代表デヒーム氏「之は議題に加へたいと思ふ。

匈牙利代表ベンケ氏「匈牙利代表の考へでは、路床土の研究には異常の努力を拂ふべきものである。特にマカダム基礎なく直接に地盤上に設くるコンクリート鋪裝の如きに用ふる各種の路床土の性状に就ては特に然りである。

米國の如く土質力學の科學的研究と各種土砂の安定性と路床としての適應性に關する研究が高度に進歩してゐる國では現代道路築造の初期から本工法が一般的工法となつて

ゐるが、歐洲ではマカダム基礎が主として指定され大陸では大多數の國でコンクリート鋪裝に必要と認められるから、前記工法は、さまで進歩してない國際道路會議の主たる目的が工法を討議し最良且最も經濟的結果を得た經驗を交換するにありとの見地に於て匈牙利代表は技術的且經濟的見地の何れに於てもマカダム基礎なしにコンクリート鋪裝を有効に築造し得た經驗に關して是非本議題をハীগ會議に加へたいと特に強く提議するものである、之に就て路床の重要性に關し各國の注意を喚起し進でより厚さの薄きコンクリート版の經濟とセメント含有量の減少を強調しかくして之を討議する機會を得たいと希望する次第である。

形式上此議題を採用し得ないとしても理事會の提議されたる此議題Dは、省いてはない爲、第一部か又は第一部と第二部との聯合部會でも設けて取扱ふべきである。

英代表クレメント氏「私は英國を代表して議題二を採用する事の極めて重要な事を述べたい、タール、ピチューメンズと乳劑との題目に關し沈黙を守つてゐる事は、吾々

に不可能に感ずるもし議題に之が含まれないとすれば會議としては重大なる缺陷である。

議題三に就ては、一般に云へば路床の研究は道路のみならず建物その他にも影響を及ぼすものであるから一般土木工學の研究範圍内のものであると思ふ。基礎の研究は米國で開催せらるゝ特別の會議で取扱はるべきであると思ふ。

然し私は路床と基礎の研究が路面の鋪裝に影響を有するを認める而して議題二と關聯して研究すべき重要な事項は基礎と路床との作用をも含ましてよいと考へる、從て議題二と之を包含せしめて一としてよいと思ふ。

西班牙代表エゴネツ氏「私は會議の議題としては議題二と同三とを別々に取扱ひたいと思ふ。

常務理事「議題三は他の部に入れてよい。

副議長ショ「實際議題の取扱ひはさうしてよい、尙、交通安全即事故、滑り交叉分離、横斷道路の如き問題のあるものは第二部に入るべきであつてその他は第一部第二部の聯合で取扱ふべきものだと思ふ。

滑りの如きは第二部に入れていゝでせうか。

常務理事「私はさうは思はない、滑りは築造と道路の使用との兩方に關聯する。然し問題を分類し直して基礎の如きは聯合部會で取扱つてもよい。

ゲリンク氏「基礎の議題は全然技術的のものであると思ふ。

常務理事「聯合部會は技術家と使用者との兩者を包含してゐるからそれで反對はないと思ふ。第一聯合部會で討論する事となれば、却て一般的關心を集めると思ふ。

それで第二部は道路の分類行政取締方法等を取扱ふものであるから今申さるゝ希望を入れるゝ譯にゆかない。それで私は第二部に「交通事故」を採用し、且「各種交通の分離方法」を加へ之に道路交叉點と横斷道路の問題を含ましめたい。

聯合部會では「滑り度と照り返し度」を採用し之に「路床と基礎」を加へたい。

第一部では先に述べられた様に(一)セメントと煉瓦並

に(二)瀝青材料を取扱ひたいと思ふ。

議長「今の提議は今迄の諸君の御意見により最大の満足
を與へるものと考へる。之を採用したいと思ふ。(満場一
致)

議長「今進で第八回會議の構成に就て協議したい。之に
關するゲリンク氏の御意見を承りたい。

和蘭代表ゲリンク氏「議長並に諸君、次の會議に就て、
述べさして頂く機會を得た事を感謝します。

會議に關して第一は吾が國のアムステルとザハークで開
催する事である。政府はザハークにある、夏季には同市は
多くの來遊者に最大の接待が出来る兩都市間の距離は六十
料(電車で五十分)に過ぎない。そしてアムステルダムを
訪問する幾多の機會があらうと思ふ。

吾々はシエヴエニンゲン(Sheveningen)で通常會議を
開きたいと思ふ、ハーグ市の一部をなす海濱の休養地で大
小高下幾多のホテルのある。シエヴエニンゲンから、ハー
グまでは電車で十分、タクシーで六分である。

開催期は六月十九日から七月二日迄としたい之は七月七
日から始る學校休暇の雜閑を避くる爲と好天氣の季節を選
んだからである。例へば九月は割合に日が短く北海よりの
風で比較的冷氣を感ずるのでかくきめたのである。

國內は比較的狭いので視察旅行及見學はシエヴエニンゲ
ンへの歸り途で毎夕刻に出来る様に取扱つた、かくして全
期間同一ホテルに泊つてゐる事が出来る已にホテルの宿泊
料の減額の交渉を始めた。

出來れば道路展覽會をシエヴエニンゲンで開催する。そ
の第一歩は來年(一九三七)十月に始める。然し經費の關
係上、之は大なる期待は出来ない。

今差上げたプログラムは全く準備的のものであつて、之
によると會議と短距離の視察旅行に一週間を見込み終日の
旅行に對しては第二週を見込み之を終つて閉會とする。

視察旅行はアムステルダム(終日)ズイデル海工事、ハ
ーレム、ウトレヒト、アーンヘン、ドルトレヒト及び國內
の南西地方で之は大河川と大橋梁が多く架設されてゐる地

方である。

和蘭政府は道路會議に屬する政府に數ヶ月内にハーク會議に参加する様公式招待を送るであらう。

プログラムが準備された時二個の聯合部會の會場を準備する必要があるかは分らない、それで會議に半月の餘裕を置く事が必要であらう。之は常務理事と打合せたい。

オットヅウリース氏「蘭領印度の代表として私は吾が政府が路面にゴムを使用する議題をプログラムに入れるに決定したから、吾が政府は疑もなく會議に重大なる貢獻をなし得る事を述べておきます蘭印はゴムの用途の擴大に特に關心を有しゴム栽培事業者はゴムを道路築造並に維持に用ふる工法の實驗に多大の金額を費してゐる。

議長「今述べられた様に次の會議を成果あらしめる様なあらゆる努力が拂はれてゐる、そして今の御言葉に對し和蘭代表に心より感謝する次第である。(拍手)

次に最後に Sundry Question に入ります。

第一はスペイン語を會議用語として採用するか否かの問

題である。エゴネズ君の意見を承りたい。

西班牙代表エゴネズ氏「諸君、昨年の常置委員會で私は述べましたがミュンヘン會議の閉會式の際西班牙代表は西班牙語を會議の公式用語に加へる事を理事會に申入れた常務理事は一九三四年一〇月二日之を承認し一九三五年六月二二日の常置委員會の議事に附した。

議長は協會の財政の見地から在來の公式用三ヶ國語に第四公式語を附加する事は新規の費用を要するから困難であると述べられた。それで私は、西班牙政府は之に要する費用を負擔するであらう事を申出でた私は政府に申告する爲にその費額を知りたいと申しましたが理事は一八三五年七月一八日ミュンヘン會議の報告の程度での追加費額を知らして來たので之を政府に移牒した、一九三六年五月二九日の閣議で之を支出する事を可決した。(拍手)

議長「有り難う、常務理事は同六月三日巴里の西班牙大使から、その通牒を受けとつた。従て委員會は次の會議から西班牙語を公式用語として採用する事を決定した。

エゴネズ氏「次の會議と同様にその間に開かるゝ中間會議でも

ゲリンク氏「西班牙語は討議に當りて用ひるか。又は報告のみに止めるか。

理事「その點を指摘して頂いてよかつた。會議への地方的委員會に特に關係ある事であるから、昨年私が、エゴネズ氏に申したのは單に印刷物のみの費用であり従て協會の豫算に及ぼす費用のみである。

エゴネズ氏「それらは吾が政府が負擔します。會議場に於ける費用は豫定して、ゲリンク氏から吾代表に知らして頂きたい。ゲリンク氏「さうします。

次に會費改訂の件に移り、團體會員の會議出席は一人當り、一〇〇フラン、臨時會員は一五〇フランとする事に改正した。

理事「一九三六年一月ベルリンKクルーゲル博士から申出あつて、毎四年毎に世界道路年鑑 (Geography of Roads) を編纂したい。之は極めて必要な事であるが、餘りに重大

で速急には決定する事は出来ない。

西班牙アムプロサ氏「協會月報の索引を作つたら便宜と思ふ。

その他の希望の談話あつて散會した。

松風の花を薪に吹そへて雪をも運ぶ山路哉

樵歌牧笛の聲、人間萬事様々に世を渡り

行く業ながら餘りに山を遠く來て雲又跡を

立へたて入つる方も白浪の谷の川音雨とのみ

聞えて松の風もなし實に誤つて半日の客たり

しも今身の上知られつゝ妻木せ負ふて斧かた

け岩根烈しき阻傳ひ

小笹を分けて歩みくる